

日野能登守降参并勇力之事

一延澤北城主日野能登守満尚、天童の旗之下ある故に
此度山形より押寄せると少く一族を引具へて天童城
へ馳来る。満尚は智勇に富み、家の子に有
路但馬無原石見とて、其人是も少くぬ者有り。安平
山形に昔し八幡太郎義家奥州征伐の砌、鳥海
月山の西所を勧請し、西所宮と後金賣吉次
ら修造せし宮有り。は社内は太く釣鐘あり、或時能
登守人々と共まゝに提ふ人々中、名は能登殿、いた
大力なれ。とては鐘を自由なまむ人々、とて能登守

少く我一人して持ちは、諸將は人々も、とて人々といふも
子細ありと云ふれ、さうは是れ一むひとて、諸将は人々を
呼て安々と引渡し、肩にかけて鐘を、山形より並に
一とて、則ち能登守り、領内露子と云ふ所、持てて古
寺にあり、おはり、おたりし程に、大力此人あり、依て
数度此戦は、板群の名譽を、義光公の御方、あるに、張守に
官に、多し、何年能登を、はかり見、とて、作らる、尾張
守、一とて、通を、認め、義光公の御方、おはる、急き、使
者、とて、一とて、使者、能登守に、對面し、二封を、差出せし
満尚、是を、披見し、とて、忽ち、心を、元氣、とて、弓矢の、具、加